

講義名	経営情報分析		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	木村 敏夫		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

*経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下す。ことを講義目標とする。

経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益・経常利益・総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数【関数組合】、線形計画、What-if分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法【事業（事業の集合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）】を学ぶ。

到達目標

*経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下す。ことを講義目標とする。

経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益・経常利益・総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数【関数組合】、線形計画、What-if分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法【事業（事業の集合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）】を学ぶ。

提出課題

講義時間内で毎回の課題（13から14回）を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講義中に行う。

評価の基準

出席（50％）と課題提出（50％）で評価する。但し、1）出席と2）提出回数双方を2/3を超えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、講義中以外は認めない。

履修にあたっての注意・助言他

*学修には経営、財務、会計、統計、表計算（MS-EXCEL）の知識が前提となっている。単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自ら、作業などをやらなければ結果はでないと考えてもらいたい。

教科書

プリント資料及び参考文献

課題はポータルに開示する。処理方法の考え方はプリントを配布する。

授業計画

第1講 データ蒐集と分類
第2講 資本調達、返済計画と利子率計算
第3講 資本調達、返済計画と利子率計算
第4講 相関・回帰分析と予測
第5講 相関・回帰分析と予測
第6講 相関・回帰分析と予測
第7講 最適資源配分
第8講 最適資源配分
第9講 最適資源配分
第10講 財務情報と損益分岐点
第11講 販売価格、費用分岐と費用削減
第12講 シナリオ登録と損益分岐情報
第13講 時系列、トレンド予測
第14講 ポートフォリオ：確率、分散不確実性下の投資決定計算
第15講 情報の検定

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

当然のことです。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標とする。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。